

平成30年度 会派調査研究報告書

(視察先1箇所につき1枚)

会 派 名	石 合 祐 太
事 業 名	先進地視察「産業活性化ビジョン」について
事 業 区 分	① 研究研修 ② 調 査

1 上田市での課題と調査の目的

福祉、教育、人権、医療施策といった分野の施策を充実させるときに、産業振興はもう一方の両輪として位置づけることができ、上田市としても産業活性化ビジョンを掲げる現状ではないことから、行政、関係団体が共通の目的を持つ必要性について学ぶことを目的に調査を行った。

また、八代市では地理的に九州の中央の地理的特性があること（博多まで新幹線で50分、鹿児島まで新幹線で45分）は東京・金沢との時間的距離が縮まった上田市とも共通の要素であり、八代市副市長は県OBの方、商工観光部部長は国の金融庁の方といったように国、県との連携において目的を明確にして取り組んでおられる点など今後の参考にさせていただくことも吸収する必要があることから、平成24年3月に策定となった八代市産業活性化ビジョンを学ぶ、今回の調査実施となった。

2 実施概要

実施日時	視察先	熊本県八代市
平成31年1月30日(水) 9:30-11:00	担当部局	八代市商工観光部商工振興課

1. 視察先の概要

人口：128,222人、面積：680.60km² 市政施行：平成17年8月1日

2. 市の特徴

熊本県南部に位置し、市域の70%が山間地。急流球磨川、氷川による扇状地や藩政時代からの干拓事業などで形成された八代平野は全国有数の農業生産地。製紙・冊子・飲食料品を中心とする県内有数の工業都市として発展。

九州縦貫自動車道や南九州西回り自動車道、八代港、九州新幹線が整備され、交通の要衝性が高い。県内最大の貿易港である八代港は工業物流拠点である一方で、15年には海外からの大型クルーズ客船が寄港し4万人以上の方が訪れるなど、国際拠点港として発展している。

財政状況は財政力指数・0.49、

経常収支比率・91.9%

3. 視察事項について

【ビジョン全体の目標値】

右表の通り。企業立地が県北部が先行したことから、地位向上を図るとともに、持続可能な産業構造の確立が基本目標。

	中間目標値（平成28年度末）	最終目標値（平成33年度末）
従業者数4人以上の事業所数	現状維持	195所
製造品出荷額等	2,400億円 又は 県内シェア 9%	2,700億円 又は 県内シェア 10%
有効求人倍率	県平均と同水準	県平均と同水準
企業立地件数（増設含む）	5年間で10件	10年間で20件
付加価値額	820億円 又は 県内シェア 9%	930億円 又は 県内シェア 10%

【策定の経過・理念・方針】

- ① 国が「産業構造ビジョン2010」を策定
- ② 熊本県が「産業振興ビジョン2011」を策定
- ③ 八代市では工業振興を図る方針が不明確⇒八代市ならではの産業活性化ビジョンの策定が急務
- ④ 平成24年3月に策定（平成24年～33年の計画）



【現状把握と課題の整理】

- (1) 全国・九州・熊本県における現状と課題
 - ・経済活動のグローバル化に伴い厳しさを増す事業環境
 - ・国内における生産活動の縮小・海外への流出
 - ・大手事業所のリストラに伴う国内工場閉鎖の進展
 - ・企業誘致による産業活性化策の限界
 - ・「選択と集中」にシフトした港湾政策
- (2) 八代市の現状と課題
 - ・高専・工業高校等の人材供給源はあるが、多く市外に流出
 - ・自動車・半導体等の九州・熊本の主力産業立地エリアと遠距離

- ・伸び悩む新たな企業進出
- ・田園工業都市としての地域特性
- ・重点港湾に指定された八代港や高速道路 IC など交通ネットワークが充実

【他都市にはない八代市の強みの掌握と展開】

- ① 交通の要衝＝高速道路の IC が 3 箇所にある、九州新幹線、重点港湾「八代港」
- ② 地理的優位性＝九州のほぼ中心、北部九州と南九州の結節点
- ③ 田園工業都市＝大規模工場やその関連企業、飼料製造業、豊富な農林水産物等
⇒目指す八代市の産業活性化の姿を「アジアとつながり、九州を結ぶ産業都市・八代」とし、強みを有効に活かせる施策を講じた。一方、弱みについても八代港は重点港湾に指定を受けているものの港湾機能が不十分である点、工業立地にあたっての適地不足など必要な対処を行う上で課題を掴んでいる。

【活かす 3 つの柱】

- (1) 地域産業の振興
 - 重点施策①人材確保、育成支援⇒（個別施策）企業の周知、スキルアップに係る研修助成、UI ターンを行う人材と企業のマッチングなど
 - 重点施策②農商工連携の推進⇒（個別施策）付加価値をつけるための技術開発、製品デザインの導入など
- (2) 企業立地の推進
 - 重点施策①地理的優位性を活かした企業立地の推進⇒（個別施策）物流拠点型産業企業や集積の進む資料関連企業などの立地の推進など
 - 重点施策②市内企業の拡張投資の推進⇒（個別施策）企業が行うハード面の整備に対する支援として市内企業への優遇措置拡充（新たな企業の市内進出の呼び水に）、工業団地の整備など
- (3) 八代港の活用
 - 重点施策①ポートセールスの活用⇒（個別施策）新規航路開拓や新規荷主の開拓、県内全域、宮崎、鹿児島両県まで含めた荷主企業への訪問を通じた集荷活動、船会社との連携強化、八代港コンテナ利用助成制度、ポートセミナー等の開催など
 - 重点施策②港湾機能の整備促進⇒（個別施策）港湾管理者である国・県に対して港湾機能の整備・充実を求める要望活動、ポートセールスの強化など

【考察（まとめ・市政に活かせると思われる事項等）】

八代市では、九州の中心部という地理的優位性と重点港湾としての八代港を抱えることを強みとして認識し、各施策の展開につなげており、港湾のない上田市ではあるが、産業活性化を考えていく時の視点として「強みと弱み」を正確に認識し、強みを伸ばし、弱みを克服するためになにが必要かトータルでとらえる必要があると再認識した。

市役所組織も八代市は県 OB の副市長、国の官僚出身の部長と目的を持つ中で人材登用を進めており、上田市においても目的に沿った機動的な組織のあり方について考える必要があると思う。